

究部会の復活を実現させたいと思っております。但し、会員諸氏はすでに多くのプロジェクトに参加されていることや、自己資金の有効活用の重要性などを考えますと、研究部会の運営においては外部プロジェクトとの連携や外部資金の導入が重要であると思えます。

昨年度、小川英治理事のご尽力により寄付行為の大幅な改定が行なわれたことで、TCERの組織面での整備が進みました。主要な改定点については、後日、お知らせする予定でおります。今年度は、昨年度とほぼ同様の事業が計画されておりますが、8月には小川理事、川崎健太郎（東洋大学）さん、橋本理（東京大学大学院生）さんのご尽力により、懸案でありましたTCER Working Paper Series（電子版）が発刊されました。まだご覧になっていない方は、是非、TCERのホームページからご覧ください。TCER Working Paper Seriesは伊藤隆敏元代表理事の発案によりNBER Working Paper Seriesをモデルとして刊行されたわけですが、TCERに所属する研究者による研究成果の国内外への発信と共に研究者間の知的な交流の場としてNBER Working Paper Seriesに匹敵するような高い評価を得ることを私は期待しております。TCER Working Paper Seriesへの投稿方法につきましては、担当者から連絡があると思えますが、TCER会員の皆様には、質の高い論文を多数掲載していただくよう、是非、ご協力頂きたいと思えます。

会員の皆様にとりまして大きなメリットをもたらすようなTCERになるよう他の理事と共に努力してまいります。ご要望やご意見があれば、是非お知らせください。よろしくお願いたします。

(2) 2006年度新理事紹介

2006年度は理事交代の時期に当たります。新理事は以下のように決まりました。（敬称略）

代表理事

浦田秀次郎（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科）

副代表理事

樋口美雄（慶應義塾大学商学部）

代表理事代理

清野一治（早稲田大学政治経済学術院）

渉外担当

伊藤隆敏（東京大学大学院経済学研究科・公共政策大学院）

総務（ホームページ担当）

土居丈朗（慶應義塾大学経済学部）

総務（ニュースレター、名簿担当）

グレーヴァ香子（慶應義塾大学経済学部）

総務（登記、報告書作成担当）

吉原直毅（一橋大学経済研究所）

企画担当

岡崎哲二（東京大学大学院経済学研究科）

国際活動担当

小川英治（一橋大学商学研究科）

会計・研究会担当

戸田学（早稲田大学社会科学総合学術院）

(3) 2006年度第1回理事会報告

2006年度第1回理事会は、2006年4月12日午後6時より、早稲田大学にて開催されました。議題は以下の通りです。

1. 2005年度事業報告（案）について
2. 2005年度決算（案）について
3. 2006年度事業計画一部変更（案）について
4. 2006年度予算一部変更（案）について
5. 新旧研究員について
6. TCER Working Paperシリーズの投稿システムについて

このうち、2005年度事業報告と決算案を決議、2006年度の事業計画と予算の一部変更は研究員会と評議員会の審議を条件に決議されました。新旧研究員については、新研究員の承認、報告期限切れの研究員については、できる限り連絡を取って研究員として続けていただくようすることを決議しました。TCER Working PaperシリーズのTCERのウェブサイトからの自動投稿システムが完成間近であることの説明を小川理事から受け、表紙のデザインなどを決議しました。

(4) 2006年度第1回研究員会報告

2006年度第1回研究員会は、2006年4月12日（水）午後7時より、早稲田大学にて開催されました。

1. 2005年度事業報告の報告を受ける
2. 2005年度決算の報告を受ける
3. 2006年度事業計画の一部変更を承認
4. 2006年度予算の一部変更を承認
5. 理事の交代、新旧研究員承認
6. TCER Working Paperシリーズの投稿システムについて説明を受ける

2. TCER 研究会

2006年度のTCER研究会は早稲田大学で開催されます。7月までの研究会を掲載いたします。

日時：2006年6月15日（木） 午後4:30～6:00

報告者：M. Utku Unver氏（University of Pittsburgh）

題名：“Kidney Exchange with Good Samaritan Donors: A characterization.”

場所：早稲田大学現政研会議室

日時：2006年6月22日（木） 午後4:20～5:50

報告者：小西 秀樹氏（東京工業大学）

題名：「社会保障の規模と財源調達：政治経済学的分析」

場所：早稲田大学1号館401

日時：2006年6月29日（木） 午後 4:20～5:50

報告者：鱒淵 賢氏（東京大学）

題名：“The Impacts of “Shock Therapy” on Large and Small Clients: Experiences from Two Large Bank Failures in Japan.”

場所：早稲田大学1号館401

日時：2006年7月6日（木） 午後 4:20～5:50

報告者：宮崎 智視氏（名古屋学院大学）

題名：「予算期間・予算過程と財政再建：OECD諸国を対象とした実証分析」

場所：早稲田大学1号館401

日時：2006年7月14日（金） 午後 4:20～5:50

報告者：于 同申氏（中国人民大学）

題名：“Asymmetry in International Financial and Monetary System and the Probability of the Emergence of the “Syndrome of Ever Higher Yuan” ?”

場所：早稲田大学1号館401

日時：2006年7月20日（木） 午後 4:20～5:50

報告者：村上 直樹氏（日本大学）

題名：「中国企業の所有制と効率性および生産性について」

場所：早稲田大学1号館401

日時：2006年7月27日（木） 午後 4:20～5:50

報告者：肥前 洋一氏（北海道大学）

題名：“Imposing a Lower Bound on Voter Turnout.”

場所：早稲田大学1号館401

3. コンファレンスご案内・報告

(1) TCER ミクロコンファレンスご案内

2006年度TCERミクロコンファレンスは第12回ディセントラライゼーション・コンファレンスとの共催で以下の要領で開催いたします。皆様のご出席を賜われれば幸いです。またご興味のおありの方にご連絡をいただけますようお願い申し上げます。

第12回ディセントラライゼーション・コンファレンス投稿論文募集

The Twelfth Decentralization Conference First Announcement and Call for Papers

ホームページ：http://www.eco.osakafu-u.ac.jp/~shichijo/dcc/call_papers.html

共催：TCER、大阪府立大学経済学会

日時：2006年10月20日（金曜日） 日本経済学会秋季大会の前日にあたります。

場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

本コンファレンスでは、ミクロ経済学の理論的アプローチに関する論文を主たる対象に、各方面からの投稿論文を募集しています。一般均衡、ゲーム、社会的選択、メカニズム・デザイン、経済動学等の経済理論の論文はもちろんのこと、国際経済、公共経済、労働経済、金融、産業組織、企業組織等の応用分野で理論モデルに基づく論文の投稿も歓迎します。

招待講演：青柳真樹氏（大阪大学）、石黒真吾氏（大阪大学）

応募資格：どなたでも（大学・研究所・企業等の研究者、大学院生等）。

投稿要領：

*論文は英語または日本語で書かれたものに限りません。（報告は従来通り英語・日本語のどちらでも可能です。）

*論文はメールに添付してください。原則としてPDFフォーマットでお願いします。そのさいのファイル名を、報告者名がわかるように記述下さい。（たとえば mnakayama.pdf など。）

*メールの題名を「DC投稿論文」としてください。メールの中に、論文タイトル、発表者の名前、要約を入れてください。

*論文の宛先：事務局（ dcc2006mail@gmail.com ）まで。

*締め切り：9月4日（月曜日）。審査の後、二週間ほどで採否を通知いたします。

コンファレンスに関し、ご質問などがありましたら、事務局(dcc2006mail@gmail.com

七條達弘： shichijo@eco.osakafu-u.ac.jp)までご連絡ください。

プログラムコミッティ：グレーヴァ香子（慶應義塾大学）、廣川みどり（法政大学）、梶井厚志（京都大学）、関口格（京都大学）、中山雄司（大阪府立大学）、小林創（大阪府立大学）、七條達弘（大阪府立大学）

（2）TCER プロジェクト（旧逗子コンファレンス）「市場と法の経済分析」第2回本会議報告

「市場と法の経済分析」をテーマとして、矢野誠（慶應義塾大学）を中心に、3年度にまたがる2年間のプロジェクトを遂行してきた。現在、2年目の終わりを迎え、最終段階に入った。

このプロジェクトは、法と経済学の接点の形成を目指す経済学者と法学者を結集して、経済における法のあり方を探り、今後の日本経済のための指針を示そうとするものである。そのために、テーマごとに経済学の専門家と法学・実務などの専門家とでペアを作り、それぞれのご専門の分野の視点から、現代のわが国における法制度の改革の方向性やその問題点などを分析・検討してきた。

平成18年4月8日9日（土、日）、小田原にて、第2回本会議を開催し、最終段階に入った各論文について報告・討論を行った。それを踏まえて、最終原稿を出版物にまとめるべく、論文の最終的な調整

を進めている。第2回本会議のプログラムの詳細は以下の通りである。

第2回本会議プログラム

4月8日(土)

第1セッション(座長 村上政博)

10:00-10:40 矢野 誠 「M&A市場とルール形成」

討論者 林康史

10:45-12:10 八田達夫「借家法—立法の意図と経済的結果」

討論者 川本 明

阿部泰隆「法律による建物賃貸借関係の規制のあり方」

討論者 鈴木 亘

第2セッション(座長 若杉隆平)

13:15-14:40 木村福成、田村次郎 「WTOと国際経済法」(仮)

討論者 阿部泰隆

14:45-16:10 村上政博「優越的地位との濫用と下請法」

討論者 山川隆一

矢野 誠「市場競争と競争法」

討論者 八代尚宏

4月9日(日)

第3セッション(座長 八田達夫)

9:00 - 10:25 若杉隆平、川本明「科学技術の法と制度—政府研究開発投資の最適配分」

討論者 木村福成

若杉隆平、若杉春枝、川本明「科学技術の法と制度—医薬品の研究開発」

討論者 福井秀夫

10:30-11:55 浅子和美、川村正幸、林康史「金融機能と外国為替制度」

討論者 若杉隆平

第4セッション(座長 浅子和美)

13:00-14:25 福井秀夫「教育の法と経済学—教育の法と経済分析」

討論者 浅子和美

八代尚宏、鈴木亘「教育機会の公平性への経済学的な視点—義務教育における
「混合教育」と大学内の所得再配分効果—」

討論者 樋口美雄

14:30-15:55 樋口美雄、山川隆一「高質な労働市場」

討論者 八田達夫

(3) 国際コンファレンス『アジアの通貨危機』報告

本コンファレンス・シリーズの目的は、危機前後の東アジア諸国経済を理論的・実証的に分析することにある。コンファレンスでは、「なぜ東アジア諸国で経済危機が発生したか?」、「その再発を防ぐにはどうすればよいか?」など、政策的に重要な課題を経済学の観点から活発な議論が展開される。東アジア諸国は、近年危機からの順調な回復を遂げたとはいうものの、1997年の経済危

機はきわめて深刻なものであり、その教訓はそれまでの東アジアの経済システムの是非を含めて数多くの論争を生み出している。

本コンファレンス・シリーズは、これまで、2001年7月17-18日東京大学山上会館、2002年7月24-25日台湾国立大学、2003年12月9-10日韓国 Kangwon National University、2004年8月30-31日東京大学経済学部、2005年7月30-31日一橋大学マーキュリータワーでそれぞれ開催され、いずれも大きな成果を残してきた。本年はそれらの成果をさらに発展させるため、2006年7月29-30日に米国ワシントン大学で行われる APEA コンファレンスの特別セッションとして開催された。日本からは、伊藤隆敏（東京大学）、小川英治（一橋大学）、斎藤誠（一橋大学）、福田慎一（東京大学）、竹田陽介（上智大学）らが参加した。7月29日の午前と午後に開催された TCER 特別セッションのプログラムは、以下の通りである。

July 29, 2006

10:45 am – 12:20 pm **Session Group 2**

Session 2-B: Financial Markets in East Asia

Sponsored by Tokyo Center of Economic Research (TCER)

Chair: Takatoshi Ito (University of Tokyo)

Mark Spiegel (Federal Reserve Bank of San Francisco), **Takeshi Kobayashi**, and **Nobuyoshi Yamori**, "Quantitative Easing and Japanese Bank Equity Values/Reputation Spillovers and International Exchange"

Shin-ichi Fukuda (University of Tokyo) and **Satoshi Koibuchi** (University of Tokyo), "The Impacts of "Shock Therapy" on Large and Small Clients: Experiences from Two Large Bank Failures in Japan"

Yuri Sasaki (Meiji Gakuin University), "Japanese Banks' Credit Allocation under the Requirement of Basle Capital Standards and the Burden of Non-performing Loans"

2:20 pm – 4:20 pm **Session Group 3**

Session 3-A: Financial Crisis

Sponsored by Tokyo Center of Economic Research (TCER)

Chair: Shin-ichi Fukuda (University of Tokyo)

Koichi Hamada (Yale University) and **Jai-Won Ryou** (Konkuk University), "Does the Bond Market Matter for the Cost of Financial Crises?"

Young-Chul Kim (Keimyung University) and **Chang-Gun Park**, "The Financial Crisis and Regional Institutionalization in East Asia"

Yu-Hsiu Lin (National Kaohsiung University of Applied Sciences) and **Len-Kuo Hu**, "Prospect Theory and Herding Behavior in the Stock Market"

Eiji Ogawa (Hitotsubashi University) and **Junko Shimizu** (Meikai University), "The Core-AMU Denominated Asian Bonds for Local Investors in East Asia"

(4) NBER-TCER 東アジア経済セミナー報告

第17回、NBER-TCER 東アジアセミナーは2006年6月22-24日、ハワイのコナ市のホテルで開催された。(東アジアセミナーの歴史については、

<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/~tito/EASEJP.htm> を参照。)今年度のテーマは、International Financial Issues Around the Pacific Rim、であり、オーガナイザーは、伊藤隆敏(東京大学)とAndrew Rose教授(カリフォルニア大学バークレー校)が勤めた。プログラムは次のとおりである。なお、この論文集はシカゴ大学出版局より出版の予定で、草稿・改訂原稿は、NBERのサイトから、入手可能である。(NBERのホームページから、publication->book in progressへと進み、EASE 17を選択)

THURSDAY, JUNE 22:**International Financial Integration**

9:45 am PETER HENRY, Stanford University and NBER

PRAKASH KANNAN, Stanford University

[*Growth and Returns in Emerging Markets*](#)

Discussants: TAKATOSHI ITO, University of Tokyo and NBER

ETSURO SHIOJI, Hitotsubashi University

10:45 am SHIN-ICHI FUKUDA and YOSHIFUMI KON, University of Tokyo

[*International Currency and the US Current Account Deficits*](#)

Discussants: LINDA GOLDBERG, Federal Reserve Bank of New York and NBER

ANDREW ROSE, UC, Berkeley and NBER

12:00 pm LEE-RONG WANG, Chung-Hua Institution for Economic Research

[*Financial Liberalization under the WTO and Its Relationship with the Macro Economy*](#)

Discussants: SHIN-ICHI FUKUDA, University of Tokyo

ROBERTO MARIANO, Singapore Management University

International Monetary Regimes

2:00 pm MICHAEL DOOLEY, UC, Santa Cruz and NBER

DAVID FOLKERTS-LANDAU, Deutsche Bank

PETER GARBER, Deutsche Bank and NBER

[*Life on the Tri-Polar Sphere: How Should Interest and Exchange Rates Realign Next?*](#)

Discussants: BARRY EICHENGREEN, UC, Berkeley and NBER

JOHN SIMON, Reserve Bank of Australia

3:00 pm EIJI OGAWA, Hitotsubashi University

KENTARO KAWASAKI, Toyo University

[Adopting a Common Currency Basket Arrangement into the "ASEAN Plus Three"](#)

Discussants: MICHAEL DOOLEY, UC, Santa Cruz and NBER

KIYOTAKA SATO, Yokohama National University

FRIDAY, JUNE 23:

International Capital Movements

9:30 am TAKATOSHI ITO, University of Tokyo and NBER

YUKO HASHIMOTO, Toyo University

[Price Impacts of Deals and Predictability of the Exchange Rate Movements](#)

Discussants: PETER GARBER, Deutsche Bank and NBER

ELI REMOLONA, Bank for International Settlements

10:30 am CHULSOO KIM, Sookmyung Women's University

[Current Account, Government Budget and World Output Shares](#)

Discussants: ASHVIN AHUJA, Bank of Thailand

PETER NICHOLAS KRIZ, Singapore Management University

11:45 am INSEOK SHIN and CHANGYUN PARK, Korea Development Institute

[Stock Market Opening and the Cost of Capital: The Case of Korea](#)

Discussants: YUKO HASHIMOTO, Toyo University

CHULSOO KIM, Sookmyung Women's University

1:45 pm KYOJI FUKAO and MIHO TAKIZAWA, Hitotsubashi University

KEIKO ITO, Senshu University

HYEOG UG KWON, Nihon University

[Cross-Border Acquisitions and Target Firms' Performance: Evidence from Japanese Firm-Level Data](#)

Discussants: CHATIB BASRI, University of Indonesia

ROBERTO MARIANO, Singapore Management University

2:45 pm BARRY EICHENGREEN, UC, Berkeley and NBER

PIPAT LUENGNARUEMITCHAI, IMF

[Bond Markets as Conduits for Capital Flows: How Does Asia Compare?](#)

Discussants: EIJI OGAWA, Hitotsubashi University

ELI REMOLONA, Bank for International Settlements

SATURDAY, JUNE 24:

International Aspects of Monetary Policy

- 8:30 am LINDA GOLDBERG, Federal Reserve Bank of New York and NBER
JOSE MANUEL CAMPA, IESE
[Pass Through of Exchange Rates to Consumption Prices: What Has Changed and Why?](#)
Discussants: CHATIB BASRI, University of Indonesia
KIYOTAKA SATO, Yokohama National University
- 9:45 am CHUNG-SHU WU and JIN-LUNG LIN, Academia Sinica
[The Relationship between Openness and Inflation in Asian 4 and G 7](#)
Discussants: PETER HENRY, Stanford University and NBER
JOHN SIMON, Reserve Bank of Australia
- 10:45 am JIANHUAI SHI, CCER
[Are Currency Revaluations Contractionary in China?](#)
Discussants: ASHVIN AHUJA, Bank of Thailand
DANTE CANLAS, University of the Philippines

(5) NERO 参加報告

TCER は、経済協力開発機構 (OECD) を中心に世界の主要な経済研究機関 (National Economic Research Organizations) が参加する OECD-NERO 会議の立ち上げに参画し、2000 年の第 1 回会議以来ほぼ毎年、代表を派遣してきた。2006 年度の OECD-NERO 会議は 6 月 12 日にパリの OECD 本部で開催され、木村福成研究員が出席した。今回は「構造的政策改革の政治経済学」をテーマに 9 つのプレゼンテーションがあり、熱心な討議が行われた。

これまでの OECD-NERO 会議はジョンストン OECD 事務局長とフェルドスタイン教授の強力なイニシアティブの下で運営されてきた。したがって、このたびの OECD 事務局長の交代を受け、今後どのように運営されていくかはやや不透明である。しかし、世界各国の研究機関の参加状況は極めて積極的であり、来年度以降も研究交流の場として機能していく可能性が高い。TCER としても引き続き参加していくことが望まれる。

編集後記

2006 年度第 1 号をお送りいたします。この号編集集中に海外出張になりましたが、ちょうど英国の航空機テロ計画発覚時で、あやうくパソコンを持っていかれなくなりそうになりました。今号の発行が予定通りにいくか危ぶまれましたが、無事発行することができました。関係者の皆様のご協力に感謝すると共に、グローバル化を痛感いたしました。(グレーヴァ)

Newsletterに関するご意見やご感想は、代表理事 浦田秀次郎 surata@waseda.jp または総務理事 グレーヴァ香子 takakofg@econ.keio.ac.jp までご連絡下さい。